

地方経済情報 Weekly No.307

球磨川流域の創造的復興に向けて ～流域治水を核とした復興を起点とする持続社会の形成～

1. 球磨川流域から持続可能な社会の実現を目指す

コロナ禍の中で大水害に見舞われた球磨川流域において、2021年11月、持続可能な社会の実現につなげる研究が始まりました。本研究は代表機関を熊本県立大学、幹事自治体：熊本県、幹事企業：(株)肥後銀行の体制(下記写真)で、「緑の流域治水※1」を中心的な解決策として、復興という課題に10年に亘って取り組むものです。その内容は、農林水産業や観光業など地域産業を復興するための拠点づくりや、住民参加型による球磨川支流の治水計画づくりなどとなっています。

2. 当研究所は産業創成を担当

本研究には目標達成のために、河川への雨水流出や、河川の氾濫流を制御する技術の開発を行う「『緑の流域治水』技術の開発」をはじめとして、5つの研究開発課題が設定されています。当研究所は、主に人吉球磨地域における新産業の創成に携わっています。

3. 「雨庭」を起点とした視察ツアーの組成に着手

当研究所は新産業の創成の第一歩として、熊本県立大学と(株)肥後銀行、(株)くまもとDMCと連携し、「雨庭」をはじめとした本研究の視察ツアー組成に着手しています。「雨庭」は、地上に降った雨水を一時的に貯留し、緩やかに地中に浸透させる機能を持ちます。急激な雨水の流出を抑制する手法として有効で、広く河川流域での適用が可能と考えられています。「雨庭」は雨水浸透機能の効果を検証するための実験施設が熊本県立大学に設置されています。

本研究にご興味のある方は、気軽にお問い合わせください。

【本研究に関する情報はこちら(熊本県立大学HP)】

https://www.pu-kumamoto.ac.jp/planning_flood-control/



※1 河川の流域全体を対象に、河川の流出抑制、氾濫流のコントロール、土地利用規制、建造物などのハード面だけでなく、ソフト面での対策も充実させる新しい考え方の治水対策である「流域治水」に、環境的な視点を組み込んだものです。持続的な地域づくりや環境保全にもつながる治水対策になります。



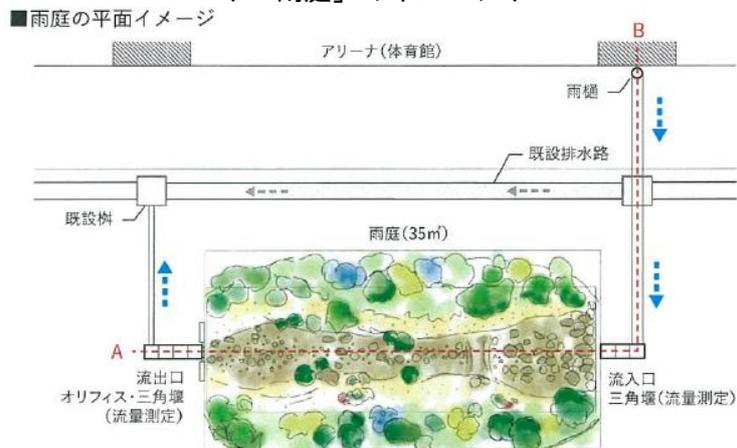
2021/11/17に開催された
本研究キックオフミーティングの様子



熊本県立大学に設置されている
「雨庭」の実験施設

(写真) 熊本県立大学提供

◆「雨庭」のイメージ◆



(資料) 熊本県立大学提供

本研究に関するお問い合わせはコチラへ

TEL : 096-326-8634

公益財団法人 地方経済総合研究所 内藤

担当：主任研究員 内藤